



東海道の難所

～大井川～

大井川は、静岡・長野・山梨三県の県境である赤石山脈を水源とし、駿河湾に注ぐ延長約 180 キロメートルの川です。兩岸には島田と金谷の宿場がありました。

大井川は非常に急流で流域も狭く、川が氾濫することもありました。そのため架橋や渡船も難しく、川越（旅人を蓮台や肩車などに乗せて運ぶ）で歩いて渡るしかありませんでした。増水の際には川を渡れず、兩岸の島田と金谷で旅行者が滞留することも多くありました。「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と馬子唄でもうたわれ、東海道の難所とされていました。



双六では、島田や金谷のコマに、大井川を川越している様子が描かれています。（右は「5. 江戸名物吾妻錦画東海道細見雙六」）



また、増水による川留めで、島田で滞留するようになっている双六もあります。「2. 東海道遊歴雙六」では島田のコマに「川どめにて二日とうりゅう」（左）と書いてあります。

なお、明治時代になると大井川には橋が架けられ、明治期の「17. 東海道上り列車鐵道壽語六」（右）では島田と金谷の間に橋が描かれています。

